リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業
第8回会議参加者（3名）アンケート　集計結果

１．本事業をどのような経緯で知りましたか。（複数回答可）

JSPSのHP	0
JSPSのメールマガジン（JSPS Monthly）	0
JSPSからのメールでの案内	1
所属機関からの案内	0
所属学会のHP、メールマガジン	0
過去のリンダウ会議参加者からの案内	1
日本人研究者からの案内	1
外国人研究者からの案内	0
その他	0

２－１．リンダウ・ノーベル賞受賞者会への参加は有益でしたか。

はい	2
どちらでもいえない	1
いいえ	0

２－２．上記のとおり回答した理由した理由は何ですか。

経済学の俯瞰的な理解を得られたからだ。学問分野が細分化され、また、自身が研究者としてのステージを進める中で、他の分野の関心や研究動向について知る機会は少ない。直接的な交流を通じて、経済学者が全体的にどのようなテーマで研究をしているかの傾向を知れたのは、自らの研究やキャリアのフレーミングだけでなく、社会における経済学の役割を考察することに繋がった。
また、ノーベル賞受賞者の考える経済像や現在の研究テーマについて、知ることができたからだ。多くの受賞者が、講義や非公式の会話を通じて、現代的な経済課題について自らの視座・研究を共有してくれた。飽くなき探究心と社会への貢献についてひたむきに知力を捧げる姿に触れたことで、自分の研究に対するモチベーションが高まり、研究者としての心構えを再考するに至った。

ノーベル賞受賞者の講演や他の参加者の発表などを聞く時間が長く、自分の研究について話す機会はNext Gen Sessionで発表しない限りインフォーマルな場に限られる。また、自分の研究分野と関係のないセッションも多い。普通の学会よりもフィードバックを得られる機会は少ない。ノーベル賞受賞者との交流については有益だったが、会議期間が長い割に自分の研究のためになる時間は少なかったように思う。

３．リンダウ・ノーベル賞受賞者会議に参加して、どのような影響がありましたか。（複数回答可）

学術的な視野が広がった。	2
通常の国際学会では得られないような助言を受けることができた。	1
国際的な場で研究活動を行いたい、という希望が強まった。	1
将来、大学や学会等でリーダーとして活躍したい、という希望が強まった。	1
共同研究等の持続的な研究交流のパートナーが見つかった。	2
自身を研究者として受け入れる研究室が見つかった。	0
webやメールではなく、顔を合わせた議論や交流の重要性を認識した。	2

4. 他の日本人若手研究者にも本事業への参加を勧めたいと思いますか。

はい	3	
いいえ	0	

5－1. 本事業への申請を検討するにあたり、何か懸念事項がありましたか。（複数回答可）

1週間という会期が長い	1	
博士論文の提出予定年度にあたる	1	
指導教員や直属の上司が本会議参加に協力的でない	0	
ラボメイトや同僚が本会議参加に協力的でない	0	
英語能力に自信がない	1	
研究業績に自信がない	1	
本会議の知名度が低い	0	
採用されるまでの競争率が高そう	0	
採用結果が判明する時期が遅い	0	
その他	1	

5－2. 上記の懸念事項をどのように乗り越えて申請を決意したかご記入ください。

自分の専門分野が少数派であり、また、他の分野に対する理解が不足しているかも知れないという懸念。
同年代の研究者と様々な分野の研究について語れる機会は大変貴重であると考え、応募するに至った。また、採択後は様々な分野の最低限の知識を得られるよう予習をした。

6. 日本人参加者同士の交流の機会は持てましたか。

はい	3	
いいえ	0	